

巻頭写真 三内丸山遺跡の縄文時代前期のニワトコ種子密集層 (Seeds bed of *Sambucus racemosa* of the Early Jomon Period at the Sannai-Maruyama Site, Aomori)

青森市街地西方の青森市大字三内字丸山に位置する三内丸山遺跡は、面積約22,000 m²に及び、平坦な台地と開析された谷を含む。1992年度から青森県埋蔵文化財センターによる発掘調査が続けられているが、これまでに、台地上からは縄文時代前期から中期の多数の住居跡と夥しい土器群が検出され、谷からも土器群のほか骨角器群などの遺物、それに多量の動物遺体・植物遺体群が検出されている。1993年度の調査では、谷に下る斜面の下部において、縄文時代前期の遺物を包含する一連の堆積物の中に、層厚約5 cmの褐色の種子のみからなる層が見出された(写真1の右上から左下に伸びる白色部; 写真2は×2に部分拡大)。室内で水洗ふるい分けした結果、この層は大半がニワトコの種子からなり、未熟なものを含むクワ属の種子もわずかに含むことが分かった。このような産状は自然散布や鳥による散布では生じにくい。ヨーロッパやアメリカではニワトコ属の果実を醗酵させてニワトコ酒を作る。青森県の八幡崎泥炭層遺跡の縄文時代晩期の遺物包含層からカジノキ種子がアンペラに陰干ししたような状態で厚さ2 cm程度に堆積していた類例がある。ニワトコ種子の密集層は人為的に形成されたと考えられ、今後の調査が酒造りの可能性の検討も含めて縄文時代の生業活動の復元に寄与することは間違いない。

文献 倉田 悟. 1978. ニワトコ. 「世界の植物第1巻」, 198-199, 朝日新聞社. 江坂輝弥. 1977. 縄文時代の栽培植物と利用植物. どんめん, 13: 15-31. (南木睦彦 Mutsuhiko MINAKI)

